

## 〔課題演習抄録〕

生活科の授業における話す活動の充実を図るための研究  
ーワークシートに焦点を当ててー

境 香 菜

Kana SAKAI

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：話す活動，ワークシート，言語活動，生活科

## 1 研究の目的

本研究は，ワークシート（以下，WS）の構造が児童の話す活動に与える効果について検討することを目的とする。

言語活動の充実が必要であると言われて久しいが，文部科学省（2014）は，言語活動についての目的意識や，教科等の学習過程における位置付けが不明確であることにより生じる問題を指摘している。さらに磯田（2017）は，言語活動が自分自身の考えや感じたことを他者に伝えるコミュニケーション能力の育成のために不可欠であると述べている。また，2018 度全国学力・学習状況調査によるコミュニケーション能力に関する質問において，「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の項目に対して肯定的に回答した児童の割合は，49.5%に留まっており，「話す活動」の充実を図る必要があると考える。2011 年の愛知県義務教育問題研究協議会の実態調査でも，言語活動の中で「話すこと」が最も課題とされた。

小学校学習指導要領解説生活編（2017）において「言葉などを使った言語活動は，思考を促し，他者とのコミュニケーションを成立させ，情緒を安定させることにつながる」と述べられている上に，言語活動に関する内容項目（8）「生活や出来事の伝え合い」（2017 年改訂分において）が前回改訂の学習指導要領解説に引き続き設定されている。加えて，対話の設定に関して等，話すことに関することが多く示されている。しかし，生活科の内容項目（8）の取り扱いが不十分であり（澤井，2017），体験活動と言語活動を共に扱う必要性があるということが述べられている（澤井，2013）。これらを解決する一方法として，話す活動が位置付けられるかを見出せないかと考えた。

本研究においては，児童の話す活動の充実を図る手立てのひとつとして WS に着目した。WS は，習得のポイントがつかみやすくなることが効果として期待されている。また，WS の機能のひとつとして，文字や絵による可視化と筆記の記録性が具現化に繋がるとされている（二ノ宮ら，2010）。これらのことから，児童の考えや思いを WS に文字として起こすことで，児童の話す活動を充実させることができるのではないかと考える。

## 2 研究の計画

公立 X 小学校にて 1 年 Y 組 31 名を対象に，生活科の授業（2019 年 7 月 3，10 日実施）において検証を行った。2 種類の WS を用いて児童の話す活動の充実を図るための検証と分析を行った。文章を穴埋め形式にした WS-A（図 1）と，項目を挙げ質問形式にした WS-B（図 2）の 2 つを比較した。穴埋め形式の WS は，基礎的・基本的知識の定着のために，（中略）実態に応じて必要なものである（赤坂，2016）。一方で，質問形式では児童が対話に必要な内容を簡潔に記入することができる。WS-A はシートをそのまま用いて話すことができるため，話すことが苦手な児童へ交流の手助けとなり，WS-B は話の話題となることを簡潔に質問という形で提示しているため，どちらも充実した話す活動の手立てとなり得るのではないかと考えた。2 種類の WS を児童に提供し，WS の違いが話す活動にもたらす効果について明らかにする。

図 1：WS-A 一部抜粋

きょう（ ）をしました。いろみずを つくる
ときは（ ）に（ ）を いれました。
（ ）いろの みずを つかって…。

図 2：WS-B 一部抜粋

はなの いろは？（ ）
いろみずの いろは？（ ）
なにを して あそんだ？（ ）

### 3 研究の内容

#### (1) 分析手順

本研究は WS を用い、その際の発話の記録をもとに分析した。「話し合って、泥遊び(色水遊び)のことを伝え合おう」というめあてのもと、泥遊び(実践 i)と色水遊び(実践 ii)について交流する時間を 1 時間ずつ設定した。まず、前時の活動を振り返りながら WS の内容に沿って記入させる。そこで記入した WS をもとに前時の活動について隣の席の児童と自由に対話する時間を設定した。対話する際は、質問したいことがあれば友達に尋ねるようという教師の指示があった。児童の発話についてはボイスレコーダーに記録し、分析・考察を行った。発話回数については、1 文を 1 回とカウントした。一方向からの発話とペアで双方向に行われる対話の両方を分析の対象とした。なお、検証したペアの数は、実践 i の WS-A で 14 ペア、WS-B で 11 ペア、実践 ii において WS-A で 14 ペア、WS-B で 11 ペアであった。

#### (2) 分析結果

##### ① 本時のねらいと発話の関連について

本時の活動では「記入したことを使って隣の席の友達や学級の友達と伝え合う中で、各自の泥遊び(色水遊び)についての気づき、発見について交流する」というねらいがあった。そのねらいとの関連をみると、前時の活動からの気づき、発見について話すことができていたものについて分析する。児童の発話例として、「泥はざらざらしていました」「アイスマイに冷たかった」「スコップを使って掘りました」「色水を作るときは、かぞえ棒の容器に水とあさがおの花を入れて作りました」等が挙げられる。このような児童の発話から、遊びの対象の性質や状態、色、活動の際の状況等を話すことで本時のねらいに即した内容が確認された。特に、WS-A においては手段(使用した道具等)を表すこと、WS-B においては、活動の状況(一緒に活動した友達について等)が多く出てくる傾向が見られた。

##### ② 対話の傾向と WS の関連について

WS-B を用いたものは、聞き手が質問する対話が多く見られた(図 3 参照)。全対話の質問平均値は、2.008 回であったのに対し、WS-B ではその平均値を上回る対話が 7 ペアで見られた。

一方で、WS-A を用いた児童の方が、聞き手から質問を受ける前に一方向から内容を多く話すことができていた(図 4 参照)。WS-A は穴埋め形式のため、WS をもとに容易に話すことができたのではな

いかと考えられる。

図 3：対話内容例一部抜粋(WS-B 使用)

児童 1：泥を触ってどうでしたか。  
児童 2：さらさらしていました。  
児童 1：友だちと遊んでどうでしたか。  
児童 2：嬉しかったです。  
児童 1：何ですか。  
児童 2：えー、楽しかったからです。  
(中略)  
児童 1：スコップは使いましたか。  
児童 2：使っていない。だって持ってきてないもん。

図 4：対話内容例一部抜粋(WS-A 使用)

児童 3：今日、色水をしました。色水を作る時は、容器に水と花を入れました。紫色の花を使って色水を作ると薄紫色の色水ができました。できた色水で絵遊びをして遊びました。質問、ある。  
児童 4：色水は濃くなりましたか。  
児童 3：なりませんでした。

### 4 成果と課題

話す量に関しては、WS の違いによる大きな差は見られなかった。話す活動で WS の記述から派生した内容を展開させるためには、WS-B のような箇条書きの WS が効果的であると解釈できる。

また、話す活動において一方向から多くの内容を話すことができていた児童は、WS-A を用いた交流に多いと確認された。対話を活性化するには WS-B を用い、説明やスピーチには WS-A を用いることが話す活動を充実させるために有効であると言える。

今後、さらなる話す活動の充実を図るためには、児童の実態に応じた WS の構造を考え、活用する必要がある。WS-A の内容の話しやすさと、WS-B の対話のしやすさを活用し、2 種類の WS のそれぞれの部分を組み合わせた際の効果について検討したいと考える。

### 主な引用・参考文献

- 磯田三津子 2017 言語活動を取り入れた生活科の授業実践 『埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』 61-66
- 文部科学省 2017 小学校学習指導要領解説総則編
- 文部科学省 2017 小学校学習指導要領生活編
- 文部科学省 2014 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)補足資料
- 二ノ宮靖史・二ノ宮寛子 2010 言語教育におけるワークシートの有効活用—大学英語を例として— 一國學院大学北海道短期大学部紀要 第 27 巻 23-40
- 澤井紀人 2013 生活科における言語活動の充実に関する一考察 愛知教育大学学術誌論文 第 11 号 112
- 澤井紀人 2017 生活科における言語活動の充実に関する研究 愛知教育大学修士論文抄録 1-6